

# 虚子記念文学館投句特選句

・令和五年十月

稲畑廣太郎 選

秋祭囃子亡き師の邸過ぐる

大阪

徳岡美祢子

露の世や黒髪長き人なりし

兵庫

小杉伸一路

赤とんぼ淋しくなれば風を折る

岡山

石井宏幸

鮭遡上母なる川の堰いくつ

石川

伊東弥太郎

小鳥来る追慕の風の汀子邸

兵庫

黒田千賀子

言の葉を生んで磨いてくれし月

神奈川

進藤剛至

秋祭芦屋の色をまとひ練る

兵庫

山口弘子

秋の日や秘かなる地階の句会

兵庫

徳永理

皆出かけスポーツの日の大あくび

香川

葛原由起

緞帳に合はすお辞儀や秋涼し

兵庫

武田奈々

(青少年)

# 入選句・令和五年十月

藪蔭にゐる鷓鴣かほ出せり	三重	水越晴子	糲だらけおやつを探す箱の中	兵庫	小川孝子
山水の景を極めてゐる添水	大阪	河辺さち子	食すより詩情に耽る通草かな	大阪	大橋明子
人の世を平らかにする月今宵	大阪	須知香代子	小鳥来てクインテットに加はりぬ	大阪	ふじもと言果
宇治十帖大気満ち来て月生るる	京都	西村やすし	刈り終へて安らぐ村や秋高し	兵庫	宮本露子
やうやくに念願叶ひ秋彼岸	兵庫	森岡喜恵子	色鳥の嘴にまあるき実の赤し	兵庫	高野さち
衰へぬ夫の握力林檎割る	三重	松村咲子	賑ひの口火切りたる初紅葉	兵庫	齊木富子
林檎狩食べ放題と言はれても	三重	池本準一	月白にやさしき笑顔重ねつつ	兵庫	涌羅由美
小鳥来や狭庭賑賑しくなりぬ	滋賀	尾崎恵子	鶏頭や虫取網に空いた穴	兵庫	山田翔太
旅先のこの秋晴にもてなされ	石川	白根寿子	秋晴のかけがへのなき初舞台	兵庫	深尾真理子
極楽の糸や鬼の子継りをり	大阪	多田羅紀子	小鳥来て寺苑の静寂深めたる	京都	山崎貴子
秋風に乗つて太鼓の北へかな	京都	杉森大介	汀子師の掛軸映ゆる秋灯	大阪	林 曜子
お囃子に心うきうき秋祭	奈良	山口廣世	残菊や褒められし日も遠くなり	兵庫	池田雅かず
身にしむる卒塔婆小町と聞かばなほ	兵庫	上岡あきら	無花果を挽ぎて五右衛門風呂に入る	兵庫	辻 桂湖
さびき釣りいも蔓しきとなる鰯	奈良	河村久美子	爽やかに心の通ふとき笑顔	石川	辰巳葉流
名月の真下に集ふ山の児等	兵庫	西村みどり	秋薔薇気合込めたる茜色	兵庫	吉村玲子
雲一つなき名月の晴れ舞台	兵庫	小柴智子	ホ句学ぶ心深めし秋高し	石川	赤島磨智子
信濃路や田毎に長き稻架を掛く	大阪	若林友子	綿菓子を落として泣く子里祭	鳥取	前田 千
着迷ふて秋の入口定まらず	大阪	谷本房子	主なき庭つと訪へば小鳥来る	兵庫	永沢達明
芦屋にも及ぶ豊穰秋祭	兵庫	山之口倫子	良き親になろうと誓ふ七五三	徳島	奥村 里
十月の風に出会ひし芦屋川	兵庫	平田 恵	猿酒の在り処迂闊に言へぬ場所	大阪	西尾浩子
小鳥来る孤食の窓を和ませて	大阪	石橋玲子	濃く淡く日を輝かせ竹の春	兵庫	槌橋眞美
五六軒残る浦曲の芒かな	大阪	立入宮子	秋の日を海へと流す芦屋川	大阪	根来譲二
水面へも零す炎や曼殊沙華	大阪	杉山千恵子	読みかへす虚子の句集や星月夜	千葉	山崎寿仁
男ぶり上がるだんじり秋祭	大阪	北上美佐子	秋めけば誰彼となく語りかけ	奈良	堀ノ内和夫
諷詠のよろこび秋の月明り	石川	辰巳昌彦	飛魚の如く飛びけり田の飛蝗	愛媛	貴田雄介
日が弾き風が急かせて木の実落つ	石川	村上秀吾	坂上の教会堂の鐘さやか	兵庫	星月彩也華
氏素性名告る要なし色鳥来	兵庫	柳生清秀	七五三木靴脱げて足袋裸足	兵庫	道中義臣
			つつましく里の暮しや椿の実	兵庫	三木雅子
			ありし日の友のブローチ椿の実	兵庫	雲山ひまり

八冠や椿の実爆ぜ大逆転	兵庫	伊藤秀子	病室を辞せば秋天あつけらん	埼玉	土井洋子
身に入むや刀傷残る京の宿	兵庫	入谷千恵子	柿挽ぎて広ぐる空の青さかな	兵庫	阿曾宏之
秋高し館へ背を押す白き風	兵庫	川村ひろみ	激つ瀬を堰く巖へ散りゆく紅葉	滋賀	近江堇花
日めくりの嵩の薄さや身に入みぬ	兵庫	山崎渺美	妖怪も紛れをるやもハロウィーン	神奈川	金子三奈乃
秋草の風情極まる句座となる	兵庫	柄川武子	しんしんと澄む歌声や秋日和	兵庫	武田優子
師を慕ふ心は人も小鳥にも	兵庫	中村澄子	東京に坂道多し秋刀魚焼く	兵庫	キートスばんじょうし
小鳥来て起きよ起きよと汀子邸	兵庫	辻田あづき			
鹿火屋より夜風に乗りし臭ひかな	兵庫	高橋純子			
風甘くして木犀の朝が来る	兵庫	玉手のり子			
菊の香の仏間に集ふ百回忌	奈良	豚々舎休庵			
向き合へば三解脱門天高し	兵庫	伊集院秀樹			
駅員もお巡りさんも秋祭	兵庫	藤井啓子			
哲学の音のすること椿の実	兵庫	岡本やすし			
芦屋川松風に満つ金木犀	兵庫	鈴木和男			
金木犀後にひと日の館かな	兵庫	藤本美枝子			
足早に風襟をたて秋深し	兵庫	足立朱麻			
外に出でよ体育の日の日本晴	兵庫	岩水ひとみ			
十月の光も風も絹漉しに	兵庫	月あんぬ			
予定表にわか埋まり秋深む	兵庫	高市敦之			
かなかなの窓に別れの退院日	兵庫	福田光博			
螻蛄鳴くや火星の紅き砂嵐	神奈川	平野孤舟			
天帝の目交ひに舞ふ鷹柱	愛知	小野 薫			
石路の咲く石垣の家ひそかなり	神奈川	斉藤苑子			
銀河濃し戦火の絶えぬ星ひとつ	和歌山	中島紀生			
浜波の襷を受けし稲の波	神奈川	小林 心			
雨あとの狭庭さえざえ十三夜	兵庫	二瓶美奈子			
蓮の実を飛ばし花托にある疲れ	大阪	田邊育子			
日の差して黄金となれる芒かな	兵庫	太平楽太郎			
新酒汲み勝鬨を上ぐ甲子園	東京	宮村土々			